

環境保全報告書(令和6年度)

2025年6月

新明和工業株式会社
航空機事業部 甲南工場

環境保全事務局

1. 重点課題の取組みに係る報告

環境目的		2024年度	2024年度		備考
		年度計画 ※F/U後計画	年度実績	評価	
1 気候変動への対応		-	-		-
・CO2排出量 低減	※ CO2排出量 [t-CO2]	年間:9,647以下	8,798	◎	目標値に対して達成。 (省エネ法のエネルギー原単位も、前年度比▲1%以上を達成。)
2 廃棄物削減とリサイクル		-	-		-
・排出量の低減	※ 廃プラ排出量 [t]	年間:194以下	206	×	目標未達。前年度より悪化。 →25年度は廃プラ排出量原単位の前年度比▲1%を達成できる値を設定する。
3 その他(継続的な取組み)	・基本と正道の徹底 ・環境にやさしい製品 ・リサイクルへの取り組み強化	①:環境法令に基づく有資格者確保及び設備点検/管理、省エネ施策実施 ②:環境測定、緊急事態訓練の実施	①:問題無し ②:甲南工場 下水排水に係る法規制超過は無し 緊急事態訓練も予定通り実施	○	
		③:教育の充実 ④:(ウイング)EMS編入に係る取組み	③:水質(漏洩防止)に係るe-ラーニングを実施。2件準備。 ④:(ウイング)現状の把握中		・(ウイング)編入に係る現状把握・調整中

評価 ◎:目標達成、○:前期より改善(目標未達でも)、△:変化なし、×:悪化

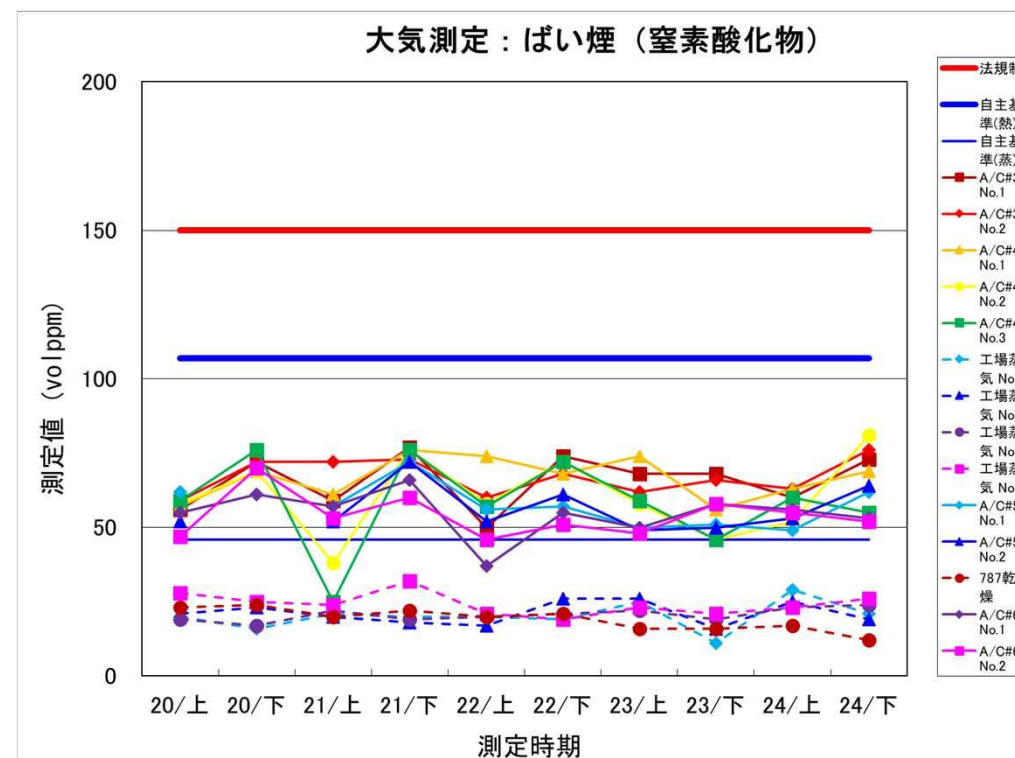
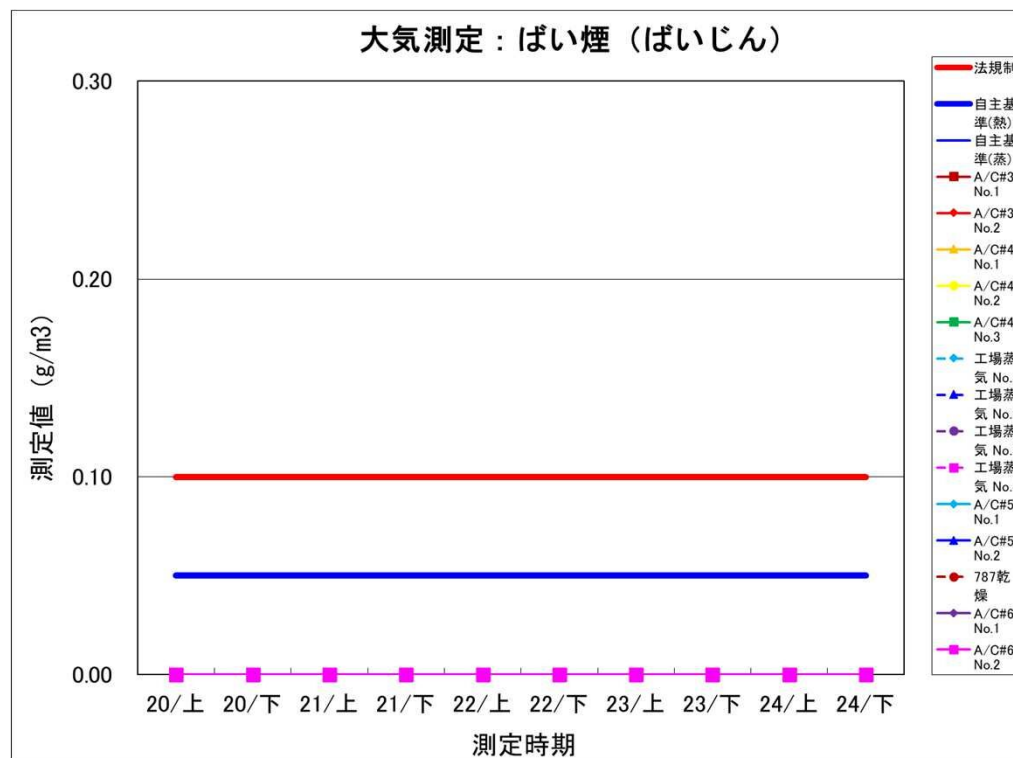
※ 航空機事業部全体(神戸市:甲南工場、神戸市以外:徳島工場・宝塚工場・播磨工場)の計画・実績。
CO2排出量は電力消費量に社内基準の係数を掛けて算出。(温対法報告基準ではない。)

2. 公害防止対策に係る報告

公害上の分類	管理項目	管理方法	目標達成のために講じた措置・対策	測定結果	評価
大気汚染	・ボイラー燃焼で発生する窒素酸化物、ばいじん ・洗浄施設で発生するVOC ・塗装設備等で発生する廃ガス	社内「大気管理基準」に従い、測定を通じて順守状況を確認し、問題があれば速やかに改善を行う。	・ボイラーメーカーによる定期点検を継続実施。 ・遠隔監視システム契約を継続し、常に最適な燃焼状態を維持。 ・設備作業前点検を順守、排気フィルタ類は定期的に清掃・交換を実施。	定期測定結果は結果①参照 測定対象無し	○
水質汚濁	・生産系排水 ・生活系排水 ・雨水排水	社内「水質管理基準」に従い、測定を通じて順守状況を確認し、問題があれば速やかに改善を行う。	・24時間連続監視による兆候管理を継続。 ・定期採水分析による監視を継続。 ・雨水側溝の清掃点検を実施。	定期測定結果は結果②参照	○
騒音・振動・悪臭	・敷地境界線における設備騒音 ・飛行艇エンジン運転時における管理基準の順守	社内「騒音・振動・悪臭管理基準」に従い、測定を通じて順守状況を確認し、問題があれば速やかに改善を行う。	・騒音定期測定(2回/年)を実施。 ・飛行艇エンジン運転時の日時順守を徹底する。	定期測定結果は結果③参照 測定対象無し	○
産業廃棄物	・産業廃棄物 ・特別管理産業廃棄物 ・事業系一般廃棄物	社内「廃棄物管理基準」に従い、測定を通じて順守状況を確認し、問題があれば速やかに改善を行う。	・廃棄物置場の定期巡視による飛散、漏洩の防止 ・廃棄物処理業者の視察による適正処理確認	定期巡視の継続実施により問題なし マニフェストの終了確認及び業者聞取りにより確認	○
土壌汚染	・有害物質使用特定施設	社内「土壌管理基準」に従い、有害物質使用特定施設の定期的な点検を実施し、問題があれば速やかに改善を行う。	・有害物質使用特定施設について定期的な点検を実施。	特定施設の定期点検結果、問題無し	○

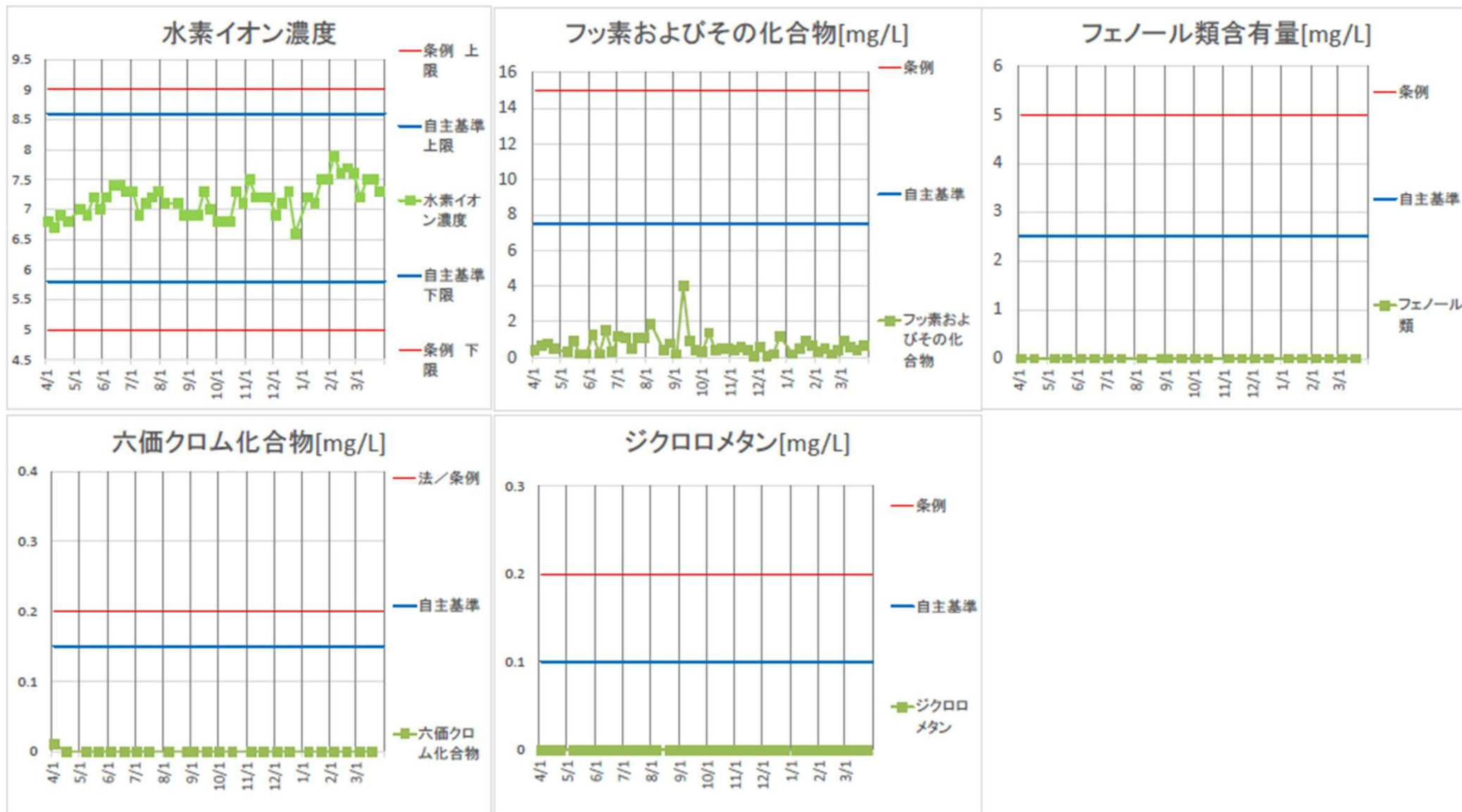
2. 公害防止対策に係る報告

2-1. 定期測定（結果①：大気汚染）



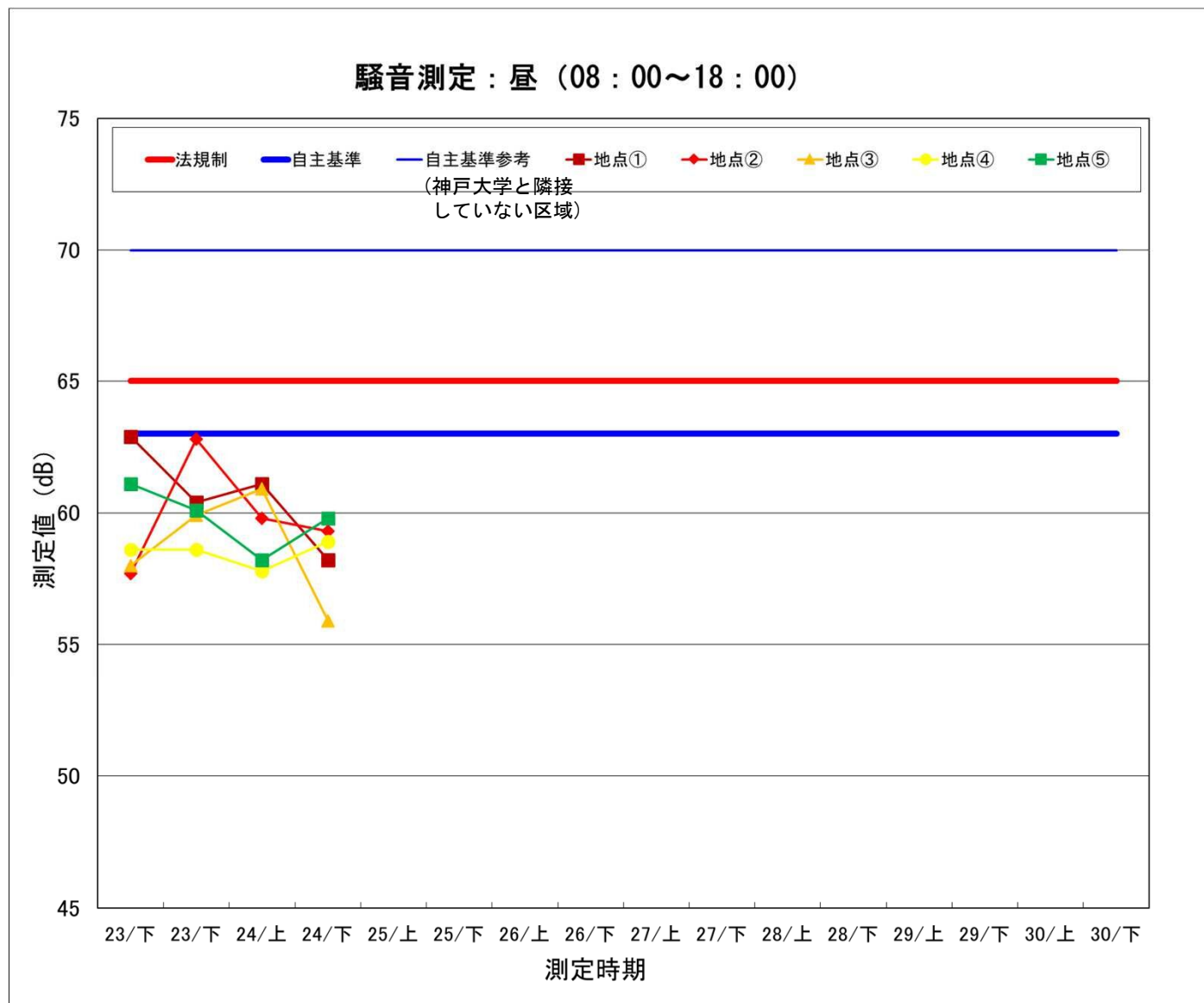
2. 公害防止対策に係る報告

2-2. 定期測定（結果②：水質汚濁）



2. 公害防止対策に係る報告

2-3. 定期測定（結果③：騒音）



※早朝、夜間の操業停止などを考慮し、昼間のみ結果を示す。

3. 地球温暖化対策に係る報告

3-1. 電気・燃料等の使用量、温室効果ガス（CO₂ のみ）排出量

（甲南工場のみ：兵庫県条例に基づく実績／計画の報告より）

活動の 区分	燃料・焼却物 等の種類	使用量等	単位	単位 発熱量 (MJ)	排出 係数	排出量	温暖化 係数	合計
					kg-CO ₂ /MJ	kg-CO ₂	CO ₂	[t-CO ₂] (CO ₂ 換算)
燃料の 使用	原料炭			28.9	0.0898			
	一般炭		kg	26.1	0.0891			
	A重油		ℓ	38.9	0.0708			
	B重油		ℓ	41.8	0.0741			
	C重油		ℓ	41.8	0.0741			
	LPG	221	kg	50.1	0.0598	662	1	0.7
	都市ガス	1,210,198	Nm ³	40	0.0513	2,484,940	1	2,484.9
	ガソリン	2,000	ℓ	33.4	0.0686	4,580	1	4.6
	灯油	5,004	ℓ	36.5	0.0686	12,523	1	12.5
	軽油	773	ℓ	38.0	0.0689	2,024	1	2.0
	その他 (廃棄物等)		kg					
電気事業者から供給された 電気の使用		15,220,207	kWh		0.419 (kg-CO ₂ /kWh)※	6,377,267	1	6,377.3
		6,522,948	kWh		0.000 (kg-CO ₂ /kWh)※	0	1	0.0
熱供給事業者から供給された 熱の利用			MJ					
ドライアイス の使用		1,240	kg			1,240	1	1.2
合計								8,883.2

※電気に係るCO₂排出係数：温対法報告での基準（排出した年度の「前年度」実績からの調整後排出係数）
電力使用量の30%をCO₂フリーとして扱う需給契約を適用中。

3. 地球温暖化対策に係る報告

3-2. 当該年度の計画達成状況（単位：t）

（甲南工場のみ：兵庫県条例に基づく実績／計画の報告より）

温室効果ガス	基準年度 排出量(a) 2017年度	現況 排出量(b) 2024年度	2030年度目標	
			抑制目標量(c)	達成率(%)
二酸化炭素※ (参考：電力の CO2排出係数)	18,831.9 (0.453)	8,883.2 (0.419)	11,675.7 (0.250)	139.0
メタン	0.6	1.0	0.4	▲ 181.3
一酸化二窒素	0.1	0.0	0.1	204.7
HFC	2.5	1.3	1.5	130.0
PFC	0.0	0.0	0.0	—
六フッ化硫黄	0.0	0.6	0.5	—
三フッ化硫黄	0.0	0.0	0.0	—
合計	18,835.1	8,886.1	11,678.3	139.0

※電気に係るCO2排出係数：温対法報告での基準（排出した年度の「前年度」実績からの調整後排出係数）
達成率(%) = [(a)-(b)] / [(a)-(c)] × 100

3. 地球温暖化対策に係る報告

3-3. 目標達成のために講じた措置・対策の達成状況

抑制措置 大分類	具体的対策	削減目標／削減量	実施状況
省エネルギー等 低炭素型事業活動の徹底	a)電力使用量の予実管理データをより詳細に提供 b)CO2フリーエネルギーの適用拡大 c)空調機器など点検、室外機の熱交換器洗浄 d)コンプレッサの適切な点検・運用 e)24h空調設備の台数間引き／操業に応じて一時休止 f)生産活動の効率化(残業・休出の縮減) g)照明・OA機器の消忘れ防止(昼休み・夜間) h)空調の適正な使用(夏期28度、冬期20度)等の定着した節電活動	電力:▲520千kWh/年 達成 電力:7,500千kWh/年 をCO2フリー化	a)継続して運用・管理実施中。 b)電力の30%をCO2フリーとする 契約を更新・継続中 6,523千kWh/年をCO2フリー化 c)～e) 省エネ促進に係るコンサル 受審により活動徹底 f)～h) 継続して運用・管理実施中 ※その他蒸気漏れ・エア漏れの修理 断熱未施工部の断熱施工
製造設備又は 事務所ビルの 低炭素化	a)LED照明導入などの照明機器更新 b)R22フロン使用機器の更新 等の効率化機器適用 c)電動力利用設備に省エネVベルトの 積極的な適用(交換)		a)LED照明更新実施中 (400型水銀灯→LED灯具へ) b)空調機器更新を逐次実施中 c)省エネVベルトへの交換多数

4. その他環境保全活動に係る報告

(航) ESG No.	ESG重要課題	項目	細目	24年度目標	24年度結果	評価
3	環境にやさしい製品	・有害化学物質の 適正管理と削減	使用量の削減 低環境負荷材料の理解 含有物質算出精度の向上	購入量・使用量・廃棄量の調査及び集計を継続 適用法令(海外・国内)のより深い理解の推進	顧客・官公庁等による禁 止物質含有有無に係る 問合せに、適切に対応。	○
4	気候変動への対応	・フロン適正処理	定期点検によるフロン類漏洩の予防 保全を実施	全数(100%)	100%自主点検実施	○
5	水質・土壌の安全管理	・廃水処理・表面処理での 事故撲滅 ・PCB管理	予防保全実施による突発事故の撲滅 棚卸し実施、保管状況の確認	事故0	外部への流出事故0	○
				保管無し、確認は年1回(9月)	同左	
7	廃棄物削減と リサイクル	～産業廃棄物～ ・発生量の抑制 ・排出量の抑制 ・埋立量の削減	積層プログラムの改善による複合材料 使用量を削減 有効期限付材料の購入量適正化 有効期限付材料の廃棄管理徹底 有価物化の推進 廃プラの分別徹底 ガラス・陶器類のリサイクル業者の開拓	729t/年(事業部全体)	688t/年 (特管130t含)	○
				3.2t/年(事業部全体)	4.0t/年 (リサイクル率基準は達成)	
		～一般廃棄物～ ・排出量の抑制 (「可燃ごみ」)	紙、プラスチック類、缶、ペットボトル類の分 別回収推進による排出量削減・勉強会 回収時の立会チェックと分別指導	6,000kg/年	6,199kg/年	×
				随時	随時実施	
12	人材育成	・必要資格保有者の 育成・確保 ・緊急時の訓練	公害防止管理者(水質関係)資格の拡充 表面処理、危険物貯蔵所、給油所での 漏洩を想定した緊急時訓練を実施	各分野におけるe-ラーニング実施体制の確立	水質関係の e-ラーニング実施	○
				各訓練項目で年1回以上	各訓練項目を網羅する 形で、全4回実施	
14	コミュニティとの調和	～工場騒音の監視～ ・飛行艇エンジン運転 試験の適正管理 ・工場設備の稼働状況 監視	近隣自治会等へエンジン運転情報の連絡 エンジン運転スケジュールの厳守 敷地境界での騒音測定実施 一部設備の夜間早朝稼働制限を実施	苦情0	苦情0	○
				法規制値順守	超過0	
				自主基準値順守	超過0	
		～地域社会への貢献～ ・ボランティア活動への 積極的参加	近隣地域や駅までの通勤経路等の 清掃活動を実施	年1回(11月)	11月に実施	○
18	基本と正道の徹底	～ISO14001の維持管理～ 内部監査 定期サーベランス 見直会議	年1回以上実施 審査機関: 日本環境認証機構 活動を振り返り、将来への改善提案	年1回以上	組織変更の影響もあり、 25/6月に実施。	○
				7月	7月に実施	
				年2回以上	24/11月、25/4月に実施	